

施設ご案内・交通ご案内

介護老人保健施設

女池南風苑

〒950-0943 新潟市中央区女池神明1丁目3番地3
TEL (025) 284-3411 FAX (025) 284-2188

在宅介護支援センター
[指定居宅介護支援事業者]

女池南風苑

〒950-0951 新潟市中央区鳥屋野2009-3
TEL (025) 283-0500 FAX (025) 283-0663

新潟南訪問看護ステーション

〒950-0951 新潟市中央区鳥屋野2009-3
TEL (025) 284-7511 FAX (025) 283-0663

にいがたみなみめいけクリニック

〒950-0943 新潟市中央区女池神明1丁目7番地8
TEL (025) 284-7818 FAX (025) 284-7830

サービス付き
高齢者向け住宅

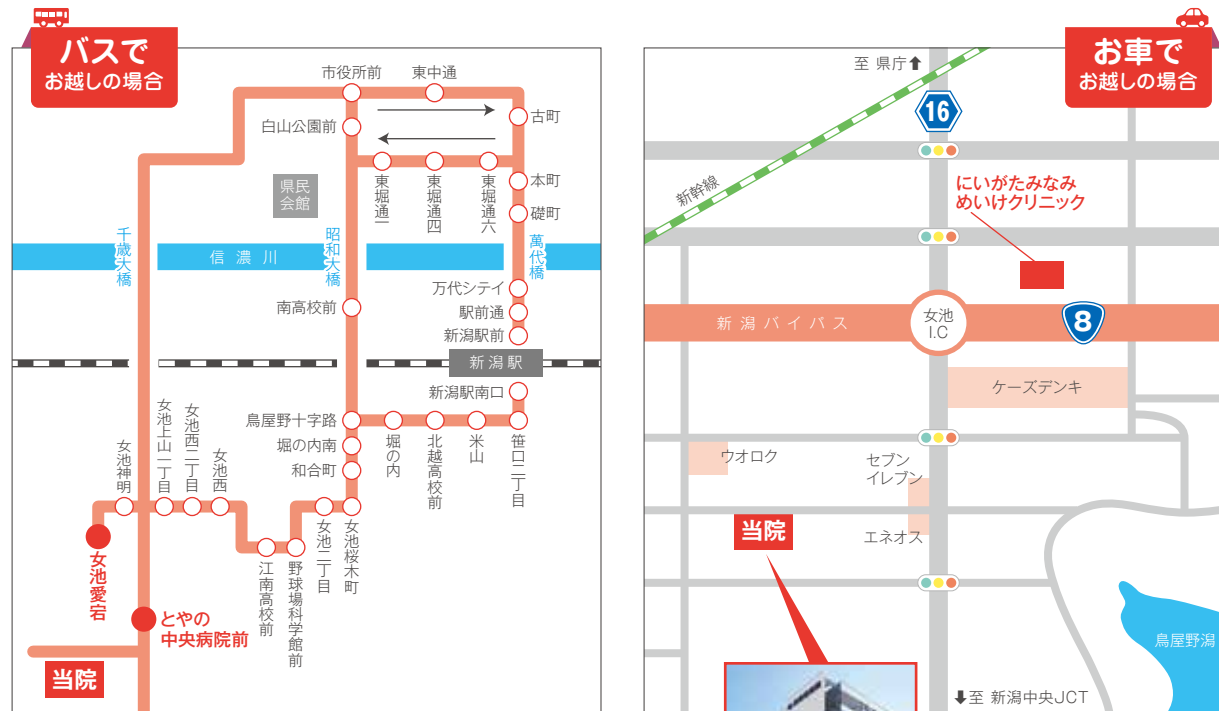
サ高住 にいがたみなみ

〒950-0950 新潟市中央区鳥屋野南3丁目25番16号
TEL (025) 284-3535 FAX (025) 282-7226

院内保育所(24時間保育)

わんぱく園

〒950-0951 新潟市中央区鳥屋野2009-3
TEL (025) 284-9563



新潟駅南口方面からお越しの場合
(S51女池線)女池愛宕行(3番線)にご乗車いただき「女池愛宕」(終点)で下車 徒歩15分
新潟市役所方面からお越しの場合
(S1市民病院線(6番線)にご乗車いただき「とやの中央病院前」下車、徒歩5分

上記以外にも、最寄りのバス停から当院までのルートを下記のURLにて調べることができます。

にいがた新バスシステムの時刻表・運賃検索

<https://transfer.navitime.biz/niigatabrt-newsystem/pc/map/Top>



フロアご案内

1階	16 救急・時間外	2階	25 ドック・健診センター	6階	● 西病棟 601 ~ 610
	15 内視鏡・生理検査		24 歯科・婦人科		61 リハビリテーション室
	14 放射線		23 眼科	5階	● 西病棟 501 ~ 515 ● 東病棟 551 ~ 561
	13 中央処置室 採血 点滴 化学療法		22 整形外科・外科・皮膚科・泌尿器科	4階	● 西病棟 401 ~ 420 ● 東病棟 451 ~ 469
	12 内科		21 母乳外来	3階	32 管理部門
	11 小児科 小児言語聴覚療法				31 手術センター
	10 総合受付				

みなみだより 新春号 [vol.12]

理事長あいさつ	2
院長あいさつ	3
歯科のご紹介	4・5
眼科だより	6・7
放射線部のご紹介	8~10
小児言語聴覚療法室のご紹介	11
施設ご案内・交通ご案内	12

医療法人 恒仁会
新潟南病院

介護老人保健施設 女池南風苑
在宅介護支援センター 女池南風苑
[指定居宅介護支援事業者] 女池南風苑
新潟南訪問看護ステーション
にいがたみなみめいけクリニック
サ高住 にいがたみなみ
院内保育所(24時間保育) わんぱく園

〒950-8601
新潟市中央区鳥屋野2007-6
TEL (025) 284-2511 (代表)
FAX (025) 284-2080
<http://www.niigataminami-hp.com>
基本理念：
医療・保健・福祉活動を通して地域社会に貢献し、
社会的責任と与えられた使命を全うします

新病院開院に当たって

創立以来 40 年を経て病院本体が老朽化し、様々な医療機能、アメニティが低下し利用者の皆様にもご不便をおかけしてまいりましたが、念願がかなって昨年 11 月 1 日ようやく鳥屋野地区に新病院を建設し移転いたしました。

竣工に至るまで、病院敷地を提供していただいた方々、建築関連の業者の皆様から多くのご支援、ご協力を賜わりましたことに深く感謝申し上げます。



理事長 渡部 透

新病院を建設するに当たっては、今まで以上に地域の皆様に暖かく寄り添い、より質の高い医療サービスが提供できるよう大きく四つの視点を上げました。

一つ目は、多様化する個々の患者様のニーズに合わせた医療を提供できること、二つ目は、在宅復帰を目指すリハビリテーションと安全・安心な療養環境をつくること、三つ目としては、災害に強く、自然と人にやさしい療養環境をつくること、四つ目としては、職員一人ひとりが生き活きと働ける職場環境をつくることでした。

それらの視点をもとにして、急性期の病床の他に、新たに回復期リハビリテーション病棟を設け、すでにあります地域包括ケア病棟とともに在宅復帰に向けての入院環境の充実を図りました。

さらには歯科領域における摂食嚥下リハビリテーション機能やニーズが多い救急部門と外来がん診療部門を強化しました。また、障害者医療としての小児言語聴覚療法室も設けました。

これまで私たち医療法人恒仁会が掲げてまいりました使命（ミッション）であります「医療・保健・福祉活動を通して地域の皆様の日常生活を支えること」、「想像力を高め、時代とともに変化できる組織づくりを目指すこと」、そして「住民の皆様が求める以上のサービスを提供して満足してもらうこと」、「安全と安心が得られるサービスを誇りを持って提供すること」の 4 つの使命を全うするために、これまで住民の皆様から戴いた 40 年間のご支援を胸に、これからも職員一同で力を尽くしてまいりますのでよろしくお願いいたします。

なお新病院への通院が難しい患者さんにご不便をおかけしないよう旧病院の一部に通院しながらリハビリができる機能を備えた診療所を開設しておりますので適宜ご利用いただきますようお願い致します。

新病院に移転して 順調にスタートしました

昨年 11 月 1 日、新潟南病院は鳥屋野に新築した新病院に移転して診療をスタートしました。建物は 6 階建て、病床数は移転前と同じ 177 床です。お出でいただくとすぐに気が付きますが、廊下が広く、明るいために視野が大きく開けます。その象徴が 6 階にあるリハビリテーションのスペースです。窓が大きく、周囲に高い建物がないために視界が良く、雲の上で、とはいきませんが空中散歩しながらリハビリをしている気分です。

建物は様々な省エネ事業に参画して建てられています。移転前からのコ・ジェネレーションシステムや移転前に始まったエコグリーンプロジェクトに加えて、ネット・ゼロ・エネルギー・ビル（ZEB）実証事業への参画、エネルギー使用制御設備（BEMS）で高性能の断熱材と窓を使った病室・居室の高い効率の空調、制御機能付き LED 照明などなど枚挙にいとまがありません。

最も大切な診療については、①病院発足当初から取り組んでいる救急医療の充実のため、救急車の乗り入れ口を通常のエントランスとは別個に設け、悪天候下では風雨・雪の影響を患者さんが受けないようにシャッターで風の通り道を塞ぐ構造にしました。また、救急外来の診察室から中央処置室にドア 1 枚で入室できるように隣接させました。②急性期の診療のために MRI を更新し、CT もバージョンアップにより機能アップしました。エコー検査室や内視鏡室も広くなり患者さんの処置や入退室が気持ちよく行えています。③急性期から回復期の病態へのスムーズな橋渡しを行って在宅復帰を支援するために 6 階のリハビリスペースに隣接して回復期リハビリ病棟を新設して空中散歩いただく傍ら、ものを食べて飲み込む機能の回復にも力を入れるべく、摂食・嚥下にも力点を置いた歯科外来も充実させました。④在宅医療へのシームレスな対応を行うべく、訪問診療も引き続き行うとともに在宅介護支援センターと訪問看護ステーションも敷地内の建物に引っ越しました。⑤高齢者社会への対応ばかりでなく、次世代を担う子供たちの成長も支援したいという思いから、旧病院でスタートしていましたが、小児科外来脇に小児に対応できる言語聴覚士（ST）の専用スペースを設けて言語・発達障害等への取り組み・訓練環境を充実させました。⑥もうひとつ、健康を守り、増進を図る健診・ドックもスペースをゆとりと取り、落ち着いた雰囲気検査や説明が受けられるように配慮しました。

手術室の拡張・充実や病室の住環境の格段の改善など、まだまだたくさん紹介したいことはありますが紙面の都合もあり、各部からの紹介記事も読んでいただきたいと思います。

まずは一度受診いただければ良さを実感いただけたと思います。健やかな方はドック・健診で実感ください。



院長 大西 昌之



歯科のご紹介

歯科 前川 和也



昨年11月に新潟南病院が新設移転し、それに伴い歯科がリニューアルされました。この度はその歯科の紹介をさせていただきます。

当院の歯科では、外来患者さんの歯科治療に加え、入院患者さんの歯科治療や口腔ケア、施設や居宅への訪問歯科診療、がん患者様の周術期の口腔内の管理を行います。摂食嚥下機能障害を有する患者さんには、言語聴覚士と協力して嚥下機能の評価や検査を行います。

まずは歯科外来の紹介をします。診療室は、明るくて広々としています。高齢者の患者さんも多くなると予想されますので、歩行に杖を使用される方や、車椅子で来院する方にも対応できるように十分な広さを確保しています。診療ユニットは新しいのはもちろんですが、背もたれが大きいので安定感があります。車椅子からの移乗が困難な患者さんにも対応できるような特殊なユニットもあります。レントゲン撮影機器につきましてもお子様から車椅子の方に対応しています。



入院患者さんの歯科治療につきましては、移動できる患者さんであれば歯科外来で対応し、移動が困難な方であればベッドサイドにて対応します。訪問診療用のポータブル診療ユニットがありますので、ベッドサイドや居宅、施設でも歯周病の治療や入れ歯の新製・調整、虫歯の治療、口腔ケアなどに対応できます。しかし、これらは患者さんの状態によっては治療できないケースもあります。（暴れてしまう、口を開けてくれないなど）

周術期口腔内管理につきましては、がんの手術や化学療法などの治療の際に歯科が介

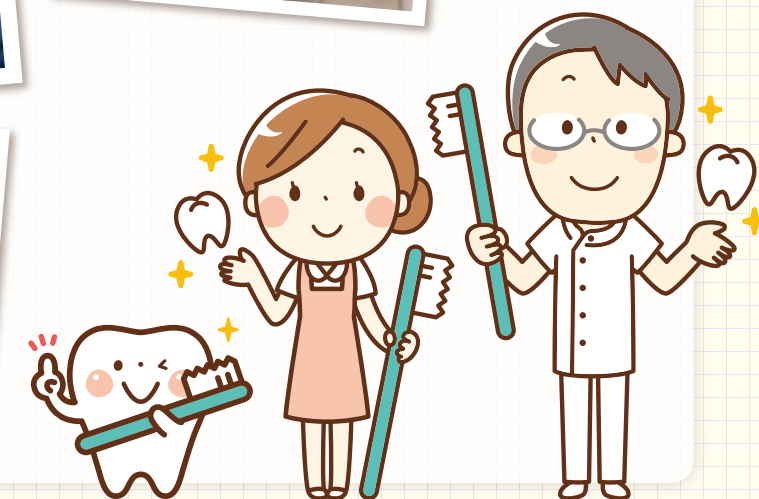
入して口腔内を診察し、必要に応じて歯科治療を行います。それにより、がん治療に伴う有害事象の予防や軽減、患者さんのQOLの向上などに寄与します。

摂食嚥下機能障害の診療につきましては、脳血管疾患の後遺症や認知症などにより嚥下障害があり誤嚥のリスクがある患者さんに対して、嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査などを実施して適切な食事の形態や食事の条件、嚥下訓練などの内容を検討します。

誤嚥というのは「飲食物や唾液などが、何らかの原因により食道ではなく気管へ入ってしまうこと」です。

近年、誤嚥性肺炎という言葉をよく耳にするかと思いますが、厚生労働省の2011年人口動態統計によると肺炎が脳血管疾患を抜いて日本人の死因の第3位になりました。その肺炎で亡くなる方の約95%が65歳以上といわれ、さらにその大部分が誤嚥性肺炎だと報告されています。その背景あり、摂食嚥下という分野が非常に注目を集めています。

最後になりますが、入院中の患者さんや地域の皆様に貢献できるよう日々精進して参りますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。





眼科だより

生活習慣・食生活の改善で目を守る

眼科専門医・
食生活アドバイザー
大矢佳美



目の病気

眼精疲労

症状 目の奥の痛み、焦点が合いにくい、肩こり。

対策 ①遠視の(昔は視力が良かった)方・42歳(老眼を自覚する平均年齢)を過ぎた方は遠近・中近・近用などの眼鏡を試みる。
②近見作業1時間毎に10分休憩または1分閉眼して眼の毛様体筋の緊張を緩める。
③体を動かし、肩の凝りをほぐす。

ドライアイ

症状 シバシバ感、ゴロゴロ感、痛み、疲れ目、視力低下、充血、まぶたを開けていられない。

対策 ①点眼。 ②近見作業時の適度な休息。 ③まばたきをしっかりとる。
④部屋の乾燥・エアコンの風に注意する。

白内障 (老化による)

症状 視力低下、かすみ目、物が二重に見える。

対策 ①UVカットのサングラス、日傘などで紫外線対策。
②不自由になったら手術。

加齢黄斑変性 (老化による)

症状 視力低下、物がゆがんで見える。

対策 ①禁煙。 ②高血圧の予防。 ③紫外線対策。
④緑黄色野菜・眼科医が勧めるサプリメントの摂取。
⑤最新治療の抗VEGF硝子体内注射で症状改善。

糖尿病網膜症

症状 視力低下、物がゆがんで見える。

対策 ①血糖コントロール。 ②糖尿病と診断されたら眼科検診。

緑内障

症状 視野狭窄、視力低下、眼痛、眼精疲労、
電灯の周りに光の輪や虹が見える(虹視症)。

対策 ①眼科検診で早期発見。 ②眼科治療の継続。

網膜 動脈硬化症

疾患 網膜動脈閉塞症、網膜静脈閉塞症、高血圧網膜症、
虚血性視神経症。

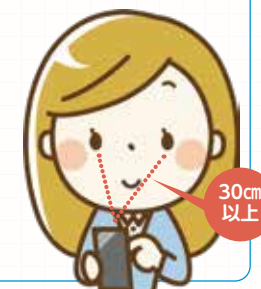
症状 視力低下、視野狭窄。

対策 ①血圧のコントロール。 ②塩分控えめの食事。 ③肥満予防。



正しい生活習慣

- ①禁煙。
- ②無理のない運動の継続で肥満予防。
- ③UVカットのサングラス、日傘などで紫外線対策。
- ④眼科検診と治療の継続。
- ⑤スマートフォンは30cm以上離して使用。



正しい食生活

- ①塩分控えめで高血圧の予防。

- ②緑黄色野菜等

●ブロッコリー・ほうれん草・小松菜・チンゲン菜(ルテイン)
→ブルーライトから目を守る。

●にんじん(ビタミンA)、いちご(ビタミンC)、かぼちゃ(ビタミンE)、牡蠣(亜鉛)
→抗酸化作用*。

- ③発酵食品

●味噌→抗酸化作用、免疫力アップ、コレステロール値上昇の抑制。

●酢→高血圧の予防、血糖値上昇の抑制、肩こり・疲れ目の改善。

●納豆→血液サラサラ、高血圧の予防。

●ヨーグルト→花粉症などのアレルギー改善。

- ④良質な油

●オレイン酸(オリーブオイル)

熱に強く酸化しにくい。

→悪玉コレステロールを減少させ、善玉コレステロールを増加させる。
血糖値上昇の抑制、抗酸化作用。

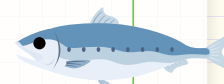
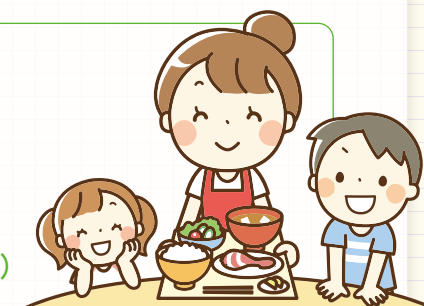
●オメガ3脂肪酸

【青魚(イワシ、サンマ)に含まれるDHA・EPA、えごま油、アマニ油、くるみ、豆類】

熱に弱く、酸化しやすいので注意。

→コレステロールを下げる、中性脂肪を下げる、高血圧の予防、花粉症や
アトピー性皮膚炎の緩和。

*抗酸化作用:細胞内のDNAを損傷し、がんや血管系の病気、老化を引き起こす活性酸素の発生を抑えること。



メガネ 外来

(午後予約制)

視力が0.5未満になると新聞を読むのが困難になると言われています。
少しでも改善したい方に眼鏡処方、遮光眼鏡処方、ルーペ・便利グッズの
紹介を行っています。希望される方はスタッフにお問い合わせ下さい。



放射線部のご紹介

放射線部の撮影装置は、病院移転に伴いほぼすべてを一新しました。

近年のX線装置は、検出器の高感度化や画像処理ソフトの進歩により、低被ばく(少ないX線量)で短時間に撮影ができ、診断に耐えうる画像が提供出来ます。この場を借りて、各撮影室と装置の機能、内容をご紹介します。



一般撮影室(世に言う、『レントゲン撮影室』)は2部屋に増えましたので、検査待ちの時間が短縮されました。撮影室の面積も、一部屋はストレッチャーでの入室が可能な広い撮影室と、もう一部屋は車椅子まで対応可能な撮影室となっていますので、高齢社会に十分対応できる設計となっています。

また、『トモシンセシス』という特殊撮影(デジタル断層撮影)機能を備え、普通の一般撮影では判別のつきにくい複雑な関節の骨折や、脊椎圧迫骨折などの病変を、簡単な撮影で発見できます。同じ断層撮影の一種であるCT装置に比べて、短時間で撮影出来、被ばくが少ない事も利点です。

X線TV装置

X線TV装置(透視装置)は、フラットパネルディテクタ(平面検出器)を搭載した装置になり、従来、30cmの円形視野だったものが、最大42cm×42cmの範囲(お腹のほぼ全域が撮影できるサイズです)が一度に撮影できるようになりました。低被ばく、高画質はもちろんの事、検査の寝台を床上48cmまで下げられますので、車椅子・ストレッチャーの患者さんの移乗も楽に行えます。



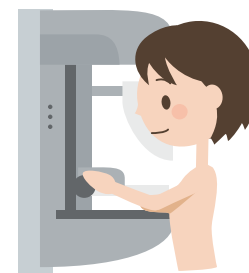
骨密度測定装置

骨密度測定(DEXA法)装置は、従来の機器よりも高速での撮影が可能となりました。腰椎の検査で、従来の装置では2〜3分間掛けていましたが、今回の装置は、およそ30秒で検査が可能となりました。全身を測定し、体組成測定(骨密度のほかに脂肪量・筋肉量などが分かります)も可能となりました。



マンモグラフィー装置

マンモグラフィー装置はフィルムでの画像出力を廃止し、フラットパネルディテクタ(平面検出器)によるデジタル撮像と、高精細モニターでの診断となり、従来のフィルムでは見えづらい濃度差のある組織(脂肪と乳腺組織)の両方が、一度に見えるようになりました。

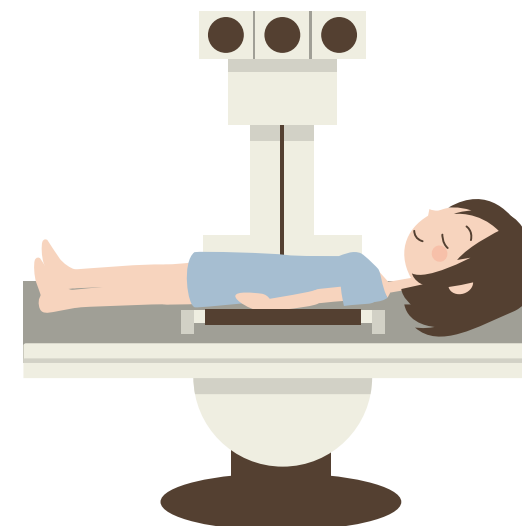


CT装置

CT装置は旧病院から移設の装置ですが、検出器を16列(X線管球が体の周りを1回転する際に、16枚分の画像データを収集する撮像素子)から64列にアップグレードし、より細かく、より早く撮影できるようになりました。

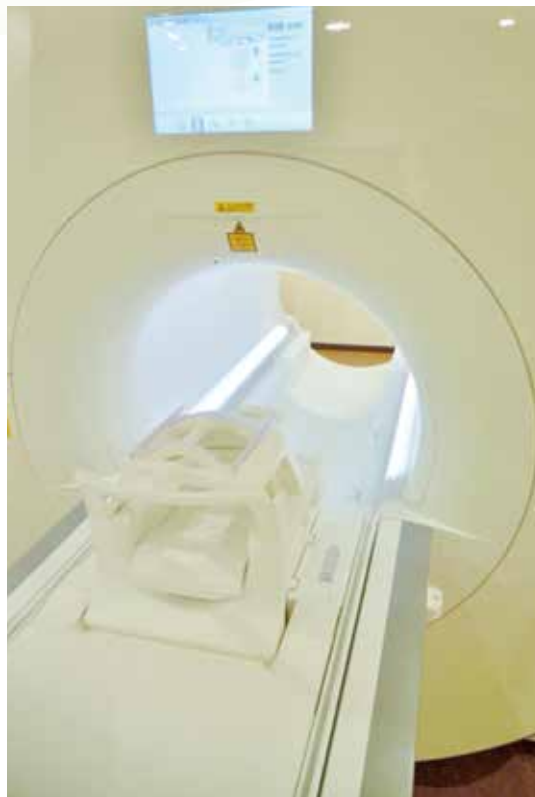
ソフトウェアも最新になり、画像作成の高速化と、体内金属のノイズ低減ソフトが搭載されました。

撮影室も従来のCT室の約2倍の面積となり、ストレッチャーのみならず、病棟ベッドでのCT室への入室も可能です。寝台の移動量が増えたので、最大1700mmの範囲の撮像が可能です。



MRI装置

MRI装置は従来と変わらない磁場強度(1.5[T:テスラ])ですが、ワイドボア・ショートガントリの装置を導入しました。開口径が70cmと広く、奥行が短いため、閉塞感の強い、狭い筒の中にすっぽりに入るイメージの従来の装置に比べ、多少は解放感が感じられるようになりました。頭部領域の検査では、目の前に迫る装置の内壁面が少し離れました。腰椎や骨盤部の撮影では、僅かですが頭が装置から出る位置での撮影となります。閉所恐怖症で検査の出来なかった患者さんでも、検査が受けられる可能性が高くなりました。



また、MRI特有の、物を叩くような耳障りな音がするという問題に対しても、静音撮影プロトコルが選択可能となりましたので、従来よりも音を抑えた撮影が可能となりました。(※撮影時間が延長する場合があります)

各部屋とも、高齢化によるストレッチャー・車椅子での移動・入室を考慮し、且つ放射線技師の作業動線と交差しないよう、操作室をバックヤードでつなぎ効率的な検査が出来るような設計としました。

将来に渡り、患者さん・スタッフ共にストレスの少ない検査機器・環境を目指しました。

詳細な内容につきましては、当院放射線部スタッフにお問い合わせください。



小児言語聴覚療法室のご紹介

当院では、小児言語聴覚療法室(小児ST)を6月に開設いたしました。小児STでは、お子さんのことばやコミュニケーションの発達について、言語聴覚士がご相談に応じ、訓練を通して、その発達を促していきます。

小児STでは、こんなご相談を受けています。

- ことばがでない
- ことばがなかなか増えない
- 集団行動が苦手
- 友達や先生とうまくコミュニケーションをとれない
- 発音が気になる
- 話すときに、つまったり、音を繰り返したり、引きのばしたりする



訓練では、お子さんの発達段階に合わせた遊びを通して、ことばやコミュニケーションの発達を促していきます。やり方はお子さんの年齢や主訴、発達の特性などによりそれぞれで、ひとりひとりに合わせた工夫を考えていきます。ことばの訓練と聞いて多くの方がイメージするような絵カードを使った訓練ばかりではありません。新聞紙や風船がことばの発信を促す材料として活躍することもありますし、ルールにそって楽しむ力をつけるためにゲームをすることもあります。また、親御さんとのやりとりの中で、お子さんのことばを育む環境づくりや、生活の中の困りごとが軽くなるような工夫をご一緒に考えていきます。

新病院では一階の内科の診察室の並びに小児ST室があります。お子さんにとっては楽しい場所、親御さんにとってはほっとする場所をめざしています。どうぞよろしくお願いいたします。

ご希望の方は、まず、小児科のはったつ外来(予約制)を受診してください。

月～金曜日の10時～12時に予約の電話受付(025-284-2511)をしています。

